

# マレーシア2港がトップ10へ

## ■コンテナ取扱量、タンジュンペラパス好調

今年1～3月のコンテナ取扱量世界上位10港にマレーシアの港湾が2港ランクインする見通しだ。マレーシア運輸省が1～3月の港湾統計を修正し、同国2位のコンテナ取扱量を誇るタンジュンペラパス港が前年同期比13.3%増の359万3434TEUとなった。これにより、1～3月実績では欧州のアントワープ-ブルージュ港やロッテルダム港を抜き、現時点で統計を公表している港湾の中では世界10位となった。ポート克蘭も1～3月のコンテナ取扱量は5.2%増の371万2430TEUと伸びており、現時点では世界9位となっている。

既報のとおり、1～3月期の世界主要港のコンテナ取扱量は、上位を占める中国港湾が堅調に伸びる一方、欧州は悪天候の影響、米国は昨年に関税政策を踏まえた前倒し出荷の反動減などにより、振るわなかった。2025年時点で世界9位にランクインしていたアラブ首長国連邦のドバイ港も、中東情勢の悪化に伴い大きく取り扱いを落とした。

こうした中、マレーシアの主要2港は堅調に推移している。ポート克蘭は昨年、年間で1500万TEUを突破し、世界10位となった。今年はさらに取扱量が増えており、ドバイ港を抜いて9位に浮上する見通しだ。コロナ禍以降、コンテナ船のスケジュール遅延や主要港湾の混雑の常態化が大きな問題となっている。近隣のシンガポール港が混雑する中、スケジュールの

安定化のため、船社がポート克蘭の活用を検討する動きも増えたことが追い風となった。

タンジュンペラパス港は近年、大きく取扱量を増やしている港湾の一つだ。同港はマースクとHAPACKロイドのジェミニ・コーポレーションのハブ港として位置付けられており、トランシップ貨物を中心に取り扱いを伸ばしている。1～3月期はトランシップ貨物が13.1%増の341万9855TEUと2ケタ増となった。北東アジアのトランシップハブ港となる釜山港の1～3月のトランシップ貨物量は0.1%増の356万1012TEUとなっており、トランシップ貨物に関して釜山港とタンジュンペラパス港の差が縮小している。

円滑に貨物を扱うための機能強化が大きな課題となっている。ポートク

ランでは、ウエストポートが2023年12月、政府とのコンセッション期間を2082年まで58年間延長したとともに、この間に約396億リンギッド（約85億ドル）を投資し、CT10からCT17の延長4800メートルの岸壁を新たに整備する。ウエストポートの年間コンテナ処理能力を1400万TEUから2700万TEUへと増強する方針だ。自動化やデジタル化を加速し、効率性を高める。

タンジュンペラパス港ではターミナル北側に延長360メートルの「バースゼロ」を新たに整備する予定だ。ガントリークレーン4基と電動RTGを導入する。2028年に完成し、同年半ばまでにターミナル処理能力を1600万TEUまで引き上げる計画としている。